

挑む!

大阪大学講師

辻田 俊哉さん(40)

困りごと 解決手法を学ぶ

高齢化の進んだ過疎の山村で、雪かきの担い手が足りない。どう解決すればいいのだろうか。

これは、勤め先の大阪大学で担当する社会問題の解決策を探る授業で、学生たちに考えてもらうテーマの一例

だ。チームを組んで、現地で雪かき体験したり、住民から困りごとを聞き取ったりすることもある。

調査から「行政サービスが追いつかない」「高齢でシャベルを持つひじに力が入らない」などの問題点が浮かび



大阪大大学院国際公共政策研究科を休学し、在イスラエル日本大使館専門調査員。帰国後に博士号取得。16年から大阪大COデザインセンター講師。

あがれば、付箋ふせんに書いてホワイトボードに貼る。「ひじに負担がかかりにくい形のシャベルをつくる」という解決策を提案すれば、実際につくって住民に使ってもらおう。そこから、新たな問題点が生じたら解決策を模索する。それを繰り返し経験を積んでいく。

原体験はイスラエル。大学院で国際関係を研究し、2006年から2年間、イスラエルの日本大使館で中東和平に向けた外交の実務にあたった。そこで見たものは、机上で学んだ紛争解決論ではすぐに止められない暴力だった。「学問の無力さを知りました」

帰国後、大学に戻り、社会的課題を発見して答えを探る取り組みを始めた。「問題を放棄するのは簡単。チームで解決を探る経験をして、挑む力を磨いてほしい」

文・合田祿 写真・植谷綾二

記者から

イノベーティブ（革新的）な人材輩出のための実践教育は珍しい。他大学に広まるか注目です。